

# 家畜衛生情報

香 川 県 畜 産 課  
 TEL(087)832-3426~8 FAX(087)806-0204  
 香 川 県 東 部 家 畜 保 健 衛 生 所  
 TEL(087)898-1121 FAX(087)898-9558  
 香 川 県 西 部 家 畜 保 健 衛 生 所  
 TEL(0877)62-0020 FAX(0877)62-3299

## 定期報告及び飼養衛生管理基準について

### < 定期報告について >

家畜（牛、水牛、鹿、馬、めん羊、山羊、豚、いのしし、鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、ほろほろ鳥及び七面鳥）の飼養者は、家畜伝染病予防法に基づく定期報告として、毎年2月1日時点の飼養頭羽数の報告が義務付けられています。

つきましては、下の表に示したとおり家畜ごとに指定された期日までに、最寄りの家畜保健衛生所に報告書を提出するようお願いします。

### < 飼養衛生管理基準について >

家畜の伝染性疾病的発生を予防するためには、家畜の飼養者が日頃から適切な飼養衛生管理を実施することが重要です。家畜伝染病予防法では、家畜の飼養に係る衛生管理に関し、最低限守るべき飼養衛生管理基準を定め、その遵守を義務付けています。

岐阜県での豚コレラ発生事例では、①農場の衛生管理区域が適切に設定されていなかったこと、②野生動物等からの病原体の侵入防止のための措置が不十分であったこと、③死体の取扱いが適切に行われていなかったこと、④死亡頭数が増加しているにもかかわらず、早期の通報が行われなかったこと等が確認されています。

これらは、国内への侵入が警戒されているアフリカ豚コレラウイルスや、本格的な渡り鳥の飛来シーズンを迎えた鳥インフルエンザウイルスの侵入防止の観点からも、**重要な遵守項目**です。

このような状況を踏まえ、今一度、飼養衛生管理基準の自己チェックにより農場の現状把握を行い、遵守できていない項目については、早急に改善をするなど、より一層の飼養衛生管理基準遵守の徹底をお願いします。

畜 種	提出期限	報告内容
①牛、豚（いのししを含む。）馬、山羊など	①4月15日	2月1日時点の飼養頭羽数、飼養衛生管理基準の自己チェックなど
②鶏、あひる、うずらなど	②6月15日	

## 家畜伝染病・伝染性疾病発生状況（近県）

疾 病 名	畜種	発 生 場 所	発生時期	発生戸数	発生頭群数
ヨーネ病(法定)	牛	鳥取県、岡山県	H30.10～12月	4	7
牛白血病(届出)	牛	兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県	H30.9～12月	131	136
牛ウイルス性下痢・粘膜症(届出)	牛	兵庫県、岡山県、香川県	H30.9～11月	10	11
ネオスポラ症(届出)	牛	広島県	H30.10月	1	1
牛サルモネラ症(届出)	牛	香川県	H30.11～12月	1	3
破傷風(届出)	牛	兵庫県、島根県、岡山県、山口県、愛媛県	H30.9～11月	8	8
豚流行性下痢(届出)	豚	愛媛県	H30.12月	2	7
豚丹毒(届出)	豚	兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県	H30.9～12月	34	58
豚サルモネラ症(届出)	豚	香川県	H30.12月	1	1
ロイコチトゾーン病(届出)	鶏	徳島県	H30.10月	1	5
鶏痘(届出)	鶏	島根県、広島県	H30.11月	2	7
伝染性気管支炎(届出)	鶏	愛媛県	H30.10月	1	11
バロア病(届出)	蜜蜂	広島県	H30.11月	2	6
アカリダニ症(届出)	蜜蜂	鳥取県、島根県、広島県、愛媛県	H30.9～11月	4	4
チョーク病(届出)	蜜蜂	広島県	H30.9～11月	2	3

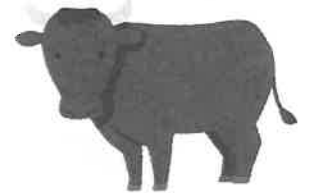
## 黒毛和種去勢牛における尿石症への *Proteus mirabilis* 関与について (平成30年度獣医学術四国地区学会より)

通常、尿は腎臓が体内の酸とアルカリの調整を行うことで弱酸性に保たれています。しかし、何らかの原因で尿が持続的にアルカリに傾くことでミネラル成分が結晶化し腎臓、膀胱、尿道で結石ができ、排尿時に痛みを伴う等の症状が現れるのが尿石症です。その発症は人、犬、猫では *Proteus mirabilis* (Pm) の感染が一要因とされています。

このPmは腸内細菌の一種で人や動物の腸管内、土壌、汚染された水域等の至る所で生息していますが、人や犬等にPmが尿路感染すると尿素をアンモニアと二酸化炭素に分解する酵素(ウレアーゼ)を産生し、尿をアルカリ化させて尿中に結晶を析出させます。牛では尿石症とPmの関与についての報告は少なく、今回、化膿性腎炎等の牛からPmが分離されていた黒毛和種肥育農場で牛における尿石症へのPm関与について検討し、概要の報告がありましたので紹介します。

黒毛和種去勢牛10頭の尿を10、12、14、20か月齢時に採取し、pH測定、尿石成分の析出反応、顕微鏡学的検査(鏡検)による結晶確認、Pmの分離培養を実施しました。結果はpHが8.2、7.8、7.3、7.8、析出反応陽性率は0%、20%、10%、20%、鏡検で結晶が確認されたのは10%、80%、90%、100%、Pm分離は70%、70%、80%、60%でした。今回の調査では肥育初期から尿pHがアルカリに傾いていたこと、Pmと結晶が高率で観察されたことから、潜在的な尿石症要因となる可能性が高いと推察されました。

肥育牛における尿石症の経済的損失は大きいことから肥育農家の皆さんは対策を講じられていると思います。牛の尿石症は複数の要因が重なり発症すると考えられており、Pmが尿石症の一要因になる可能性も示唆されたため、他の要因も含めて今後も調査研究が実施されることと思われます。



## 近年問題となっている豚疾病について

豚繁殖・呼吸障害症候群ウイルス(PRRSV)や豚サーコウイルス2型(PCV2)による疾病は、母豚の出産や肥育豚の成長を阻害するなど経営に大きな影響を及ぼします。

PRRSVは、母豚に繁殖障害、離乳豚や肥育豚には呼吸器障害を引き起こすウイルスで、欧州型と北米型に分けられます。現在、国内では欧州型の発生はなく、北米型が流行しています。北米型はI~Vのクラスターに分類され、日本国内では、2015年から2017年にかけてクラスターIVが多く発生しています。クラスターIVは他と比較し臨床症状が強く現れ、流産率が高くなっています。

PCV2は、離乳後多臓器性発育不良症候群の原因となるウイルスで消瘦や呼吸器障害を引き起こします。PCV2はa~eの5つの遺伝子型に分けられます。近年、国内では分離されていなかったPCV2dが分離され、浸潤が確認されています。PCV2dは、他の遺伝子株と比較し、ウイルス増殖力や病原性が強いと考えられています。

PRRSVやPCV2に対しては既存のワクチンが有効です。適切なワクチネーションにより疾病の発生を未然に防止しましょう。

新しい知見では、非定型豚ペスチウイルス(APPV:豚コレラウイルスと同属)が先天性痙攣症の豚から分離されました。先天性痙攣症は、新生子豚の頭部や体幹の震えを引き起こすことからダンス病とも呼ばれ、発症子豚は、股開きになり歩行困難で哺乳ができず衰弱して死亡する疾病です。この疾病は、豚コレラウイルス感染あるいは遺伝的要因等によるものではないかと考えられていましたが、現在、このAPPVが先天性痙攣症を引き起こす原因と推測され研究が進められています。APPVは、発症子豚や感染豚の口腔内液、尿や糞便から長期に渡り排出されるため農場内での汚染源となります。本疾病は、中国や他のアジア地域で多く発生しており、国内でも発生が確認されていることから、農場内への病原体の持ち込みがないよう改めて飼養衛生管理基準遵守の徹底をお願いします。

## 採卵鶏農場の「農場HACCP認証農場」取得に向けた取組 (第59回全国家畜保健衛生業績発表会から)

農場 HACCP は農場での作業手順を文書化し、異物や食中毒菌の混入など、生産物の人への危害要因を分析し、対策を取ることで安全・安心な畜産物を消費者へ届ける取組です。作業手順の文書化や、日常作業の記録・保管などの事務負担は増えますが、日常作業を客観的に見直すことで生産性の向上が見込まれます。京都府の大規模養鶏農場での「農場 HACCP 認証農場」取得に向けた取組について発表があったので紹介します。

平成 26 年度より、飼養規模 18 万羽、飼料会社直営の採卵鶏農場が農場 HACCP 認証農場の取組を開始しました。企業経営であるため定期的な人事異動があり、後任者へ農場作業等の引継を確実に行う必要がありました。写真を効果的に用いた衛生管理作業手順書を作成することで全従業員の日常作業を『見える化』し、引継作業が効率よくできるようになりました。また、作業内容を文書化することで、作業手順の問題点を従業員自らが検証し、改善するなど、従業員全体の日常作業に対する意識向上が図られました。平成 27 年に「農場 HACCP 推進農場」、取組開始から 4 年後の平成 30 年に「農場 HACCP 認証農場」を取得しました。今後は 3 年に一度の更新手続きのため、定期的な作業手順書の見直しを実施することとしています。

県内でも「農場 HACCP 認証農場」取得に向けた取組を行っている農場が多数あります。事務負担の増加に苦勞されている農場は多いですが、生産性が向上し、従業員の意識が向上しているという話をよくされます。また、平成 30 年 7 月以降、一定の条件を満たせば農場 HACCP 認証マークを生産物に貼付できるようになり、付加価値の向上も期待されています。「農場 HACCP 認証農場」取得の取組を検討されている方は最寄りの家畜保健衛生所にお問い合わせください。



## アフリカ豚コレラ、豚コレラ、鳥インフルエンザ等の最近の発生状況

### アフリカ豚コレラ(アジア)



- ・中国 2018年8月以降 121か所  
(110農場、4施設、6村、野生いのしし1か所)
- ・モンゴル 2019年1月 9農場

### 豚流行性下痢(日本)



- ・愛媛県 2018年12月 2農場

### 豚コレラ(日本)



#### 豚

- ・岐阜県 2018年9月以降 8農場  
2019年1月29日7例目の発生  
2019年1月30日上記の関連農場で疑似患者

#### 野生いのしし

- ・岐阜県 104例、愛知県 6例

### 高病原性鳥インフルエンザ(アジア・ロシア)



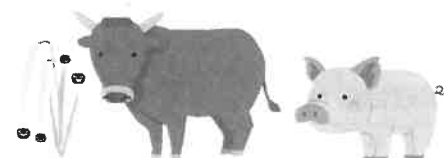
- ・台湾 2017年1月以降継続的に発生 311件
- ・ロシア 2019年1月 1件

### 低病原性鳥インフルエンザ(アジア)

- ・韓国 2018年10月以降 野鳥51件
- ・日本 2018年10月以降 野鳥3件  
(千葉県、愛知県、鹿児島県)



### 口蹄疫(アジア・ロシア)



- ・中国 2018年9月以降 5か所
- ・ロシア 2019年1月 4か所
- ・韓国 2019年1月 2か所

2019年1月30日現在

家畜及び家きんの伝染病の農場への侵入防止のため飼養衛生管理基準を遵守するようお願いします。また、まん延防止のためには早期発見及び早期通報が重要ですので、異常がみられる場合は、速やかに家畜保健衛生所にご連絡ください。

## 新人だより

はじめまして。畜産課生産流通グループの井手上奈央（いでがみなお）と申します。生まれも育ちも香川県で、今年度から大好きな地元のため、お手伝いできることとなり、とても嬉しく思っています。

畜産との出会いは大学3年生の時、畜産の研究室に入ったことでした。研究室では鶏を飼育しており、朝の餌やりから1日が始まっていました。最初は20kgの餌袋を抱えられず、餌やり一つとっても大変でした。しかし、自分たちで初めてかえした雛に感動したり、あっという間に大きくなるブロイラーにびっくりしたりと、毎日が発見の研究室生活でした。さらに、研究の間に他県の農場や海外の施設の見学にも行き、そんな盛りだくさんな日々を過ごすうちに畜産に関わる仕事がしたいと思うようになりました。

畜産課では、畜産クラスター事業に関することや、生乳の流通に関することを主に担当しながら、上司や先輩から幅広くいろいろなことを教えていただいています。入庁から10カ月経ち、入庁当時は???だらけだった言葉もようやく覚えてきました。まだまだ覚えることはたくさんありますが、早くみなさまのお役に立てるよう精進して参ります。これからもどうぞよろしくお願いたします。



(学生時代の海外農場研修にて。左から2人目が筆者。)

### <お知らせ>

#### ○ヨーネ病定期検査について

家畜伝染病予防法第5条の規定に基づく平成31年度定期検査の対象牛及び実施市町は、下記のとおりです。ご協力よろしくお願いたします。

**対象牛**：繁殖のために飼養している雌牛（乳用牛及び肉用繁殖牛）

**実施市町**：東かがわ市、三木町、土庄町、坂出市、善通寺市、  
観音寺市（大野原町中姫地区、粟井町）、三豊市（三野町、高瀬町比地二地区）

\*平成31年度より乳牛に加えて肉用繁殖牛も検査対象となります（詳細は前回号参照）。

#### ○アカバネウイルスなどの県内の侵入状況

今年度、県内のサーベイランス検査ではアカバネ病、アイノウイルス感染症、チュウザン病、牛流行熱及びイバラキ病と、新たに家保独自の検査としてピートンウイルス感染症の抗体検査を実施したところ、それらの抗体に大きな動きはありませんでした。また、ワクチン接種農家では良好な移行抗体の付与と考えられる抗体価の上昇がみられたため、今後も引き続きアカバネ病を含む混合ワクチンの接種をお願いします。